

挑む!

映像作家

向井 啓太さん(26)

養護施設育ち 友の苦悩追う

第1作「チヨコレートケーキと法隆寺」は、夕暮れの空に響く奈良・法隆寺の鐘の音から始まり、自身の淡々としたナレーションがかぶる。「子ども

のころ、一日の最後になるその音は僕を不安にした。早く帰らなければとせ

第1作「チヨコレートケーキと法隆寺」は、夕暮れの空に響く奈良・法隆寺の鐘の音から始まり、自身の淡々としたナレーションがかぶる。「子ども

「ぬめっとしたバタークリームと、ばさばさのスポンジ」だった。慶応大で映像制作を学んでいた頃。18歳で施設を離れた同い年の友人たちを追おうと、成人式での再会からカメラを回した。父が病死し、母は精神を病んだという告白の手紙。大人数の中で育ったせいか、仕事にも通えないほど、一人暮らしの孤独にさいなまれる女性。推薦入学した大学から姿を消した男性。2年かけて撮った100時間の映像には深い苦悩が詰まっている。東京や奈良の映画祭で評価され、各地で上映会が催された。「映画の方が突っ走っていて、追いつくのが大変」と苦笑いする。

次回作は未定。「今は撮れない。児童福祉とは違う世界も見て、視野を深めていきたい」

文・写真 小滝ちひろ



1991年、奈良県生まれ。2016年の「座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバル」奨励賞などを受ける。現在は福祉関連の仕事に従事。

記者から

「迷ったら撮る」という意気に感動。生活が落ち着いたら、ぜひ続編に取り組んでほしい。